

# Let's try! 介護保険外サービス

経営安定・サービス充実のヒント

第30回 介護・医療施設向けのコスト適正化サービス  
アスモグループ シニア情報センター



花堂浩一代表取締役

## 施設情報の提供とコスト適正化で 入居希望者と施設経営者を支援

訪問介護、居宅介護支援、福祉用具貸与・販売を展開するアスモグループ(東京都中野区)は、2008年に独自の機能を備えた有料老人ホーム等の情報を掲載するサイト「シニアハウスコム」を開設。翌年には、同サイトに登録しているユーザーサービスの一環として「コスト適正化サービス」を開始、光熱水費の削減など介護施設等の運営を改善するサービスとして注目を集めている。

### 業界初の機能を備えた 施設情報提供サイトを運営

「現状の国の財政から考えると、介護報酬だけに頼った事業を展開しては今後、経営が先細りになる可能性があります。介護報酬だけに頼らない新たなビジネスの必要性を感じていました」と花堂浩一代表取締役が話すように、2009年度の国の税収約

38兆円に対し、10年度一般会計予算の歳出総額が約92兆円、債務残高が約900兆円と、国の財政は年々厳しくなってきた。花堂代表が新たなビジネスを模索するなか、まず着手したのが首都圏の有料老人ホームや高齢者向け住宅の情報を提供するサイト「シニアハウスコム」の運営だ。同サイトは08年5月にM&Aで取得し、翌09年9月にリニューアルを実施、機能の大幅な見直しを図りサービスの充実を実現させた。同サイトは現在、東京都の新事業活動促進法承認事業に認定されるなど各方面から注目されている。

同サイトの大きな特徴は、施設側と入居希望者側のニーズを

結びつける「マッチング機能」と、実際の入居者からの声を紹介する「口コミ機能」にある。「マッチング機能」とは、入居希望者が自身のADLの状態や希望する場所、金額などを登録、その情報をもとに、同サイトに登録している施設が直接入居希望者に自施設を紹介できるというもの。一方「口コミ」機能は、同サイトから実際に施設を見学したり入居を決定したユーザーからの書き込みのみを掲載、入居しないとわからない施設の雰囲気や正確な情報を得ることができるよう工夫されている。

この他にも同サイトからの入居契約者に最大10万円のキャッシュバックなどを展開しているのも同サイトならではのサービスだ。「当社は長年にわたり介護サービスを提供してきたからこそ、入居希望者と施設側それぞれの目線に立ったサービスの提供が実現できたのだと思います」(花堂代表)

### 法律や規約に遵守した コスト適正化の手段を伝授

シニアハウスコムは初期費用

表 有料老人ホーム(東京都目黒区、80床)のコスト適正化の例

(単位:円/年)

項目	導入前料金	導入後料金	削減額	削減率
電気	14,586,600	13,412,111	1,173,889	8.0%
ガス	3,867,800	3,167,520	700,280	18.1%
水道	3,650,000	1,043,000	2,607,000	71.4%
通信	914,000	714,500	199,500	21.8%
ビルメンテナンス	756,000	378,000	378,000	50.0%
年間コスト削減額	23,773,800	18,715,131	5,058,669	21.3%

が1施設当たり3万円(通常コース)、システム管理費が年間3万円のみで、広告掲載料などのランニングコストはかからず、同サイトからの入居が決定した際の成果報酬費のみが発生する仕組みになっている。リニューアルを機に登録施設数を伸ばし、現在は

400件を超えている。

このように低価格を売りに行っている同サイトではあるが、各施設に高いコスト意識が求められる昨今、このような投資に対する決断に迷う事業者も多い。そこで同社が次に始めたのが、介護施設向けのコスト適正化事業だ。

「結果が見えないものに費用をかけることができない」と言われる施設に対して、『当社が利益を出せるように支援するので、そこから費用を出してはいかがでしょうか』という話になったことがこのサービスを始めたきっかけです」と花堂代表は話す。

今年5月から本格的に開始した同サービスは、同社が懇意にしているコンサルタント会社と提携しながら、電気料金や水道料金などの光熱水費をはじめ通信料、テナント料、ビルメンテナンス料などのコスト適正化をサポートする。開始からまだ間もないが、これまで有料老人ホームやグループホームなど300を超える事業所からの依頼があり、削減額は全体で1億円以上ものほつているという。

「このサービスは単純なコスト

の『削減』ではなく、コストの『適正化』であることが特徴です。機器の取りつけなどリスクを伴うような設備投資はせず、法令や規約を遵守した方法で適正化を図っています」と花堂代表は説明する。

適正化の具体的な手法をここではすべて明かすことはできないが、光熱水費であれば料金支払いプランの見直し、ビルメンテナンス料であればスプリンクラーやエレベーターの点検費用の見直しなどが挙げられる。水道料金は最大で約70%、平均にして58%の削減を図っている。また、ビルメンテナンス料も平均で約50%の削減を実現させている(表)。

同サービスは1〜3年間の契約で、支払報酬は契約期間によって割合が異なる。1年契約の場合、減額分に対する75%、2年契約であれば1年目は50%、2年目は30%、3年契約では各年30%となる。費用に関しては実際にコストの適正化に成功した金額のなかから支払う。仮にコスト適正化がされなければ一切費用は発生しない。

同サービスを初めて利用する

人からは、「本当にコストの適正化ができるのか」と言われることもあるというが、実際に適正化に成功すると、「他の施設でもアドバースをしてほしい」と信頼を寄せようになるそうだ。

シニアハウスクムのリニューアルなどに多額の初期投資をしたが、これら2つのサービスが相乗効果を発揮したことで顧客数を増やし、運営は徐々に軌道に乗ってきている。現在は首都圏の施設を中心にサービスを提供しているが、今後はニーズに応じて、中部や関西エリアへの展開も視野に入れている。

「適正化サービスとサイト運営を両輪に、将来的には人材派遣サービスなど有料老人ホームとのネットワークづくりをするなどインフラ整備を進めていきたい」と花堂代表は意気込みを見せる。

## アスモグループ シニア情報センター

TEL: 03-5318-4017

http://www.senior-house.com